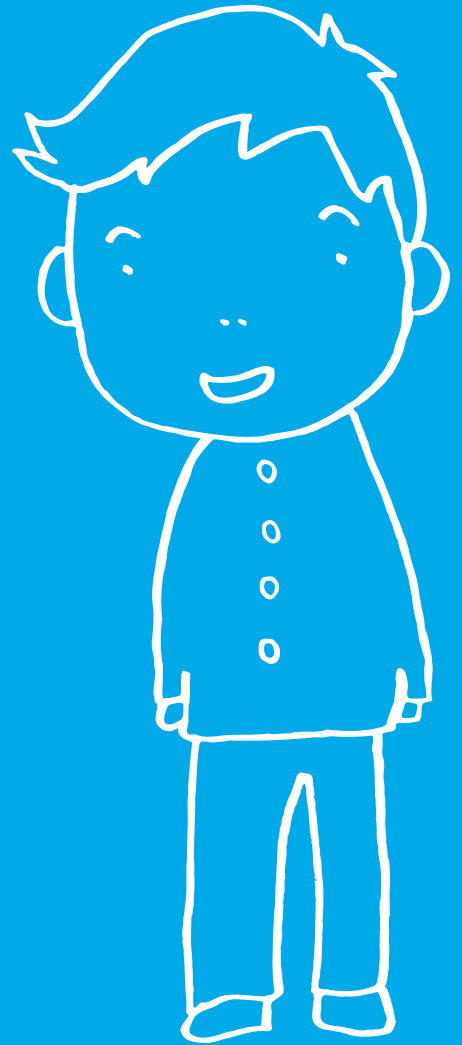


第50回 おおかねの作文 コンクール



金融広報中央委員会は
全国の中学生を対象に「おかねの作文」を募集しています。
今年度はコンクールの第50回を記念して、
50回記念特別賞もあります。
みなさんの見たこと、聞いたこと、感じたことをもとに
「おかね」について考えてみよう。
キミの応募を待ってるよー！

特選5編(賞状と図書カード4万円分)

金融担当大臣賞/文部科学大臣賞/日本銀行総裁賞/日本PTA全国協議会会長賞/金融広報中央委員会会長賞

秀作4編(賞状と図書カード2万円分)

■佳作50編(賞状と図書カード2千円分)

■学校賞(特選受賞者在籍校)5校(賞状と図書カード1万円分)

50回記念特別賞1編(賞状と図書カード4万円分)

9月20日
しめきり!!

※消印有効

★ テーマ:自由

テーマ(作文に書く内容)は、「おかね」に関するものであれば、どのようなものでも構いません。

テーマを考えるときの参考として、テーマの例を以下に示します。ただし、この中から選ぶ必要はありません。自分が書きたいと思う内容を自由に考えてみてください。

テーマを決めた後、作文の内容にふさわしいタイトル(題)をつけてください。

◆テーマの例

1. 将来の夢の実現とおかねの関わり

あなたの将来の夢は何ですか。やってみたい仕事はありますか。あなたが思い描く未来を実現するために、どのようなことを心がけ、準備をしていったらよいでしょうか。あなたの「将来設計」を、おかねとの関わり方を含めてまとめてみましょう。

2. 私のおかねのルールやわが家の約束事

あなた自身やあなたの家族で決めているおかねについてのルールはありますか。商品を買うときに心がけていること、携帯電話の使い方、お小遣いのルールなど、消費者として行動の基準としている点はどのようなことですか。

3. 活かしたおかねの使い方とは

おかねを使うと、持っているおかねは減りますが、一方で得られる満足があります。おかねの使い方は、その人の価値観やものの考え方を表すとともに、多少なりとも世の中に影響を与える面を持ちます。買い物や貯金などについての、自分自身の体験や、周囲の人のおかねの上手な使い方について書いてみましょう。

4. ニュースにみるおかね

新聞やテレビ等で報道された、おかねに関わるニュースを取り上げて、あなたが思うことを書いてみましょう。身近な地域、中学校、社会や文化、海外や世界が関係するさまざまなニュースの中で、興味がわいたり、関心を持ったニュースを探してみましょう。

第50回「おかねの作文」コンクール 募集要項

[応募資格] 中学生

[賞] ●特選 5編(賞状と図書カード4万円分)

金融担当大臣賞/文部科学大臣賞/日本銀行総裁賞/日本PTA全国協議会会長賞/金融広報中央委員会会長賞

●秀作 4編(賞状と図書カード2万円分)

●佳作 50編(賞状と図書カード2千円分)

●学校賞(特選受賞者在籍校) 5校(賞状と図書カード1万円分)

●50回記念特別賞 1編(賞状と図書カード4万円分)

[締め切り] 2017年9月20日(水)※消印有効

[発表] 12月中旬頃、金融広報中央委員会ホームページ(<http://www.shiruporuto.jp/>)などで発表。

[送付先] 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 5F 毎日企画サービス

金融広報中央委員会コンクール事務局「おかねの作文」コンクール係

※インターネットの専用サイトからも応募できます。下記アドレスに接続し、画面の指示に従って応募フォームにより送信してください。 <http://www.ron2017.jp/>

[問い合わせ先] 金融広報中央委員会コンクール事務局 TEL.03-6265-6818(土・日・祝日を除く10時~17時)

金融広報中央委員会コンクール作品募集ホームページ <http://www.ron2017.jp/>



★ 作文指導にあたり、先生方から生徒たちへ伝えていただきたいこと。

金融教育は、現実の社会の中で生きていくために必要な金融・経済などの知識や、お金を適切に取り扱う態度を身に付けることなどを目的としています。この金融教育は「生活設計・家計管理」「金融や経済の仕組み」「消費生活・金融トラブル防止」「キャリア教育」の4つの分野に分けて整理することができ、「生きる力」の育成にもつながります。作文を書くにあたっては、生徒たちへ上記のテーマの例などを参考に、身の回りのお金や自分の将来に目を向け、考えたことを書くようご指導ください。

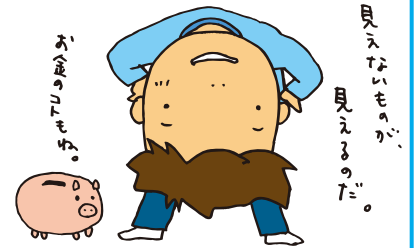
金融広報中央委員会とは?

「金融広報中央委員会」(事務局:日本銀行情報サービス局内)は、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、国民に対し中立・公正な立場から「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行っている団体です。

あなたは、お金やモノを大切にしていますか？

私たちの回りには、たくさんのモノやサービス、情報があふれています。「豊かな社会」の中で、私たちは本当に必要なものを選択し、使っていくことが大切です。お金の使い方もそうです。適切な判断と行動ができる消費者になるためには、将来を見越して計画的にお金と付き合えるようにならなければなりません。

金融広報中央委員会が募集した「おかねの作文」コンクール、昨年は全国から3,392点の作品が寄せられ、60点が入賞作品に選ばれました。これらの作品も参考にしながら、自分の回りで「見たこと」「聞いたこと」「感じたこと」をもとに、自分自身の意見をまとめてみましょう。



第49回 (2016) 受賞作品の紹介



過去の入賞作品はこちらをご覧ください。

http://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_sakubun/

金融担当大臣賞

「百点貯金」から学んだこと
北海道 札幌市立真栄中学校 3年
長嶋 咲未さん

作品の内容 筆者はテストで100点を取ると100円をもらい貯金を約束が祖母とあります。中学生になって100点の答案も減った時に、頑張って勉強するあなたを応援するのが祖母の楽しみだと母に言われ、もらうお金は全て「想い」がこもっていると気付きます。そして、お金を使う時は「込められた意味と想いを思い出したい」と結びます。審査員は「人の想いとお金の結びつきがうまく書かれている」ことを授賞理由として挙げました。

受賞者の声 普段何気なくお金を使っている私たちですが、この作文を書くことによって、それは決して当たり前ではないことや、そうできる理由があるのだということに気付かされました。消費の在り方やお金との関わり方について深く考える良い機会になったと思います。

文部科学大臣賞

お金の価値
兵庫県 川西市立東谷中学校 3年
向山 佳奈さん

作品の内容 筆者は中学2年生の時に5日間、作業所での仕事をして、学校の勉強より疲れを感じました。そこから、家族のためにお金を稼ぐ父の大変さを痛感。小遣いをもらうようになったら小遣い帳をつけて無駄づかいをせず、家族ができれば教えてもらったお金の価値を子供達に伝えていきたい、とつづりました。「お金の大切さについて、頭で理解したことと作業所での体験をうまく結び付けて丁寧にまとめている」ことが評価されました。

受賞者の声 親に教えてもらった、お金は当たり前にあるものではないということ、職場体験である「トライやる・ウィーク」で学び感じたお金の得ることの大変さをこれからも忘れずに、将来お金の管理をきちんとし無駄づかいをしないようにしていきたいです。

日本銀行総裁賞

十円玉三枚の重み
新潟県 新潟大学教育学部附属新潟中学校 3年
高橋 まりあさん

作品の内容 筆者は母、妹と参加しているフリーマーケット用に、初めて雑貨作りをし、手作りの苦労を体感しました。自作品を買った人に渡された10円玉三枚に「初めて自分で稼いだという感動と、買ってくれた人への感謝の重みを感じた」そうです。母が「儲けのないフリマに参加していたのは、私たちに大切なことを教えるためかも」と思います。「経験から感じた大変さや母親の想いが素直に表現されている」と審査員から高い評価を得ました。

受賞者の声 今回、この作文を通して私や母の想いが伝わった気がしてうれしかったです。「フリーマーケット」を通してお金の重さや意味を覚えてくれた母に感謝するとともに、今の気持ちを忘れずにお金を大切に、価値ある使い方をしていきたいと思っています。

日本PTA全国協議会会長賞

一円玉一枚は一つの思い出
東京都 東京学芸大学附属国際中等教育学校 2年
平澤 宏凜さん

作品の内容 筆者は2歳の時、曾祖母から大きなごみ袋3つに入った1円玉のお年玉をもらいます。曾祖母と買い物に行ったり、銀行に預金したり、募金したりと少しずつ使っていました。認知症になった曾祖母からはあのお年玉の意図は聞けませんが、1円玉をもらった時の感情やそれにまつわる出来事を筆者は覚えていて、「大切な物語」と言います。審査員は「素直な感情がよく表現されている」と評価しました。

受賞者の声 この作文を書くことで「お金」というものの価値と向き合うことができました。同じ日本でお金を作っている人がいて、私の持つお金に触れてきた人がいると思うことで温かさを感じ、お金の人生と共に生きる一人の消費者としての在り方を考えていきたいです。

金融広報中央委員会会長賞

祖父のランドセル
神奈川県 カリタス女子中学校 1年
酒谷 南帆さん

作品の内容 筆者は、祖父のくれた形見のランドセルと、転校先の学校指定の2つのランドセルを所有。後者はすぐに寄付すると決めましたが、前者は「私のために使われたお金と思い出が詰まっている」ため悩みます。人との交流が好きなのに病気で長旅ができなかった「祖父の代わりに旅をさせ、次の人に使ってもらう方がいいかも。もう少し悩んで決めたい」と結びます。「祖父の生き方まで思いを広げて上手に書けている」と高く評価されました。

受賞者の声 祖父は私にとって、とても大きな存在でした。今回、この作文を書いて気持ちの整理ができ、悩んだ末、ランドセルは祖父の命日に寄付しました。ものにも変わっていても、お金の重みは変わらないということを改めて感じる良い機会となりました。

秀作

祖母の努力
宮城県 古川学園中学校 2年
後藤 由佳さん

フェアなお金の使い道
東京都 東京学芸大学附属国際中等教育学校 2年
青山 瑞季さん

価値あるお金の使い方
京都府 洛南高等学校附属中学校 2年
大上 紗笑さん

募金を通して思ったこと
大分県 向陽中学校 2年
木谷 智哉さん

ストップ5(ファイブ)
長野県 駒ヶ根市立赤穂中学校 3年
渡邊 成美さん

学校賞

北海道 札幌市立真栄中学校
東京都 東京学芸大学附属国際中等教育学校
神奈川県 カリタス女子中学校
新潟県 新潟大学教育学部附属新潟中学校
兵庫県 川西市立東谷中学校

第49回
審査員
(敬称略)

長岡 寿一(金融庁総務企画局政策課課長補佐) 望月 昌代(文部科学省初等中等教育局視学官) 寺本 充(公益社団法人日本PTA全国協議会会長)
新飯田 潤一(全日本中学校国語教育研究協議会会長) 蔵本 雅史(日本銀行情報サービス局金融広報課長) 前川 瑞穂(金融広報中央委員会事務局次長)

応募の注意点

●文字数について **空白を含む1,600～2,000字**(参考文献・出典は含みません)

 原稿用紙で 書くなら	400字詰め原稿用紙 ※タテ20字×ヨコ20行	 パソコン原稿で 書くなら	1行20字詰め ※1枚につき30行以内
---	-----------------------------------	---	-------------------------------

◎作品募集ホームページ(<http://www.ron2017.jp/>)にある応募用原稿用紙をご利用になることもできます。

●応募について

個人で応募する場合	・下記応募用紙に記入してください(応募用紙はコピー可)。 ・作品タイトル、氏名(ふりがな)、学校名(ふりがな)、学年、学校および自宅の住所、電話番号、FAX番号を記入して作品に添付してください(応募用紙は必ず本人が記入してください)。
学校単位で応募する場合	・学校宛てにお送りしています 学校専用応募用紙 にてご応募ください(学校専用応募用紙はホームページ< http://www.ron2017.jp/ >からダウンロードすることもできます)。 ・下記応募用紙(個人用)は不要です。

◎応募は未発表の作品に限ります(インターネット上での作品公開も発表とみなします)。また、二重投稿はご遠慮ください。 ◎日本語に限ります。 ◎作品は理由を問わず返却しません。
 ◎入賞作品の著作権・著作権は主催者に帰属します。 ◎佳作の作品は公表しません。
 ◎作品公表の際には個別企業名や商品名に関する表記を変更させていただくことがありますので、予めご了承ください。

作文を書くにあたってのご注意

- ・本文冒頭1行目に作品タイトル、2行目に学校名、学年、氏名を記入してください。本文は3行目から始めてください。
- ・規定文字数に達しない作品は審査の対象となりません。
※原稿用紙によらないパソコン原稿の場合も同様です。
- ・右肩をホチキスで留めてください。

参考文献の明記

- ・参考にした文献(書籍、インターネット等)はすべて、作文の最終ページに必ず記入してください。

引用するときの注意点

- ・他の人の文章は、なるべく使用しないようにしましょう。
- ・どうしても使用したいときには、かぎ括弧をつけて自分の文章と明確に区別したうえで、作文の最終ページに、必ず出典を記載してください。

(出典) ○枚目○行目～○行目、金融広報中央委員会「ピギナズのためのファイナンス入門」 ○○出版、二〇一〇年三月、二十五ページ ○枚目○行目～○行目、金融広報中央委員会「きみはリッチ?」多重債務に陥らないために 関野日二〇一七年七月十九日

(出典の記入例)

インターネットの場合
 ○枚目○行目(応募作品中該当箇所)、著者名、書籍名、出版社名、出版年参照または引用したページ
 URL、閲覧日

書籍の場合
 ○枚目○行目(応募作品中該当箇所)、著者名、書籍名、出版社名、出版年参照または引用したページ

参考文献・出典の記入方法

作品タイトル ○1行目 作品タイトル ○2行目 学校名 学年 氏名 ○3行目 本文
--

(記入例)

※応募の際は、下記個人情報の取り扱いについて保護者の方にもご確認いただいたうえでご応募ください。

個人情報の取り扱いについて ●応募者の個人情報は、入賞作品の選考、入賞者への連絡のためにのみ使用し、主催者および当コンクール業務受託先が責任をもって管理します。●応募者本人または保護者の許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。ただし、法律や法的拘束力のある命令等に基づいて開示が要求された場合には、その要求に応じることがあります。●入賞者の氏名・学校名・学年および作品の一部は、金融広報中央委員会ホームページ等にて公表させていただきますので、予めご了承ください。



キリトリ

第50回「おかねの作文」コンクール 応募用紙(個人用)

作品タイトル		
ふりがな 氏名	ふりがな 学校名	学年
立 中学校 年		
学校住所 (〒 -) 都道 市区 府県 郡		
学校電話番号 () -	学校FAX番号 () -	
自宅住所 (〒 -) 都道 市区 府県 郡		
※マンション、アパート名等も必ずご記入ください。		
電話番号(日中連絡の取れる先) () -	FAX番号 () -	

下記のアンケートにご協力ください。

◎このコンクールはどちらで知りましたか。番号を○で囲んでください。(複数回答可)

1.ポスター 2.チラシ 3.新聞や雑誌(媒体名) 4.ホームページ 5.知人から 6.学校 7.その他()

※応募者の個人情報は当コンクール以外の用途には使用しません。